

教科書から見る男女平等教育

高等学校で学ぶ『家庭基礎』



日本が女子差別撤廃条約に批准して昨年で30年。批准の条件の一つに挙げられたのが家庭科教育の男女必修・必修でした。

そこで今回、市内の高等学校で使われている家庭科の教科書がどのような内容になっているのか調べてみました。

家庭科といえば衣・食・住が中心だと思われがちですが、家庭基礎の教科書を見ると、まずはじめに男女共同参画社会の目標や課題などが、カラー印刷で分かりやすい図やグラフを用いて丁寧に説明されています。私たち男女共同参画推進員が日々話し合ったり、学習を重ねている内容が大方掲載されており、今はこういった授業を高校時代に男女ともに学習していることに深く感動しました。

また、どの教科書にもキーワードになる言葉として、「性別役割分担意識」「女子差別撤



廃条約」「男女共同参画社会基本法」などがあり、その説明もされています。

また、用語等の説明だけではなく、今は共働き世帯のほが多くにもかわらず、諸外国に比べて日本は職場における女性の管理職登用が進んでいないなど、男女共同参画が実現されていない側面もあるなどといった問題の指摘もされていました。

育児に関しては、イクメンの紹介やワーク・ライフ・バランス先進国である北欧の現状が紹介されており、性別役割分担意識を取り除き、男女ともに仕事も家庭も、という意識の確立が求められることや、そのためには職場での長時間労働の見直しが必要と記載されていました。

また、現代社会の教科書においても、内容は簡単にまとめられていますが、用語などについては同じように触れられていました。

こういった内容を高校生のときに男女ともに学ぶことで、自分も積極的に子育てにかかわりたいと望む男性が増えるなど、男女共同参画に関する意識が広がっていくのではないのでしょうか。

帯広市デートDV予防講座レポート in 帯広三条高等学校



デートDV（若年層における交際の暴力）を未然に防止するため、帯広市では年に数回、市内の高校等で講座を開催しています。

2016年9月21日（水）、

NPOピーチハウスの志堅原郁子さんと山田さおりさんを講師に迎え、帯広三条高等学校の二年生を対象にデートDV予防講座が開催されました。大人の間で起こるDV（配偶者等からの暴力）とデートDVの構造は全く同じです。

身体的暴力以外にも精神的暴力や性的暴力などがあり、相手を自分の思いどおりに支配しようとする態度や行動がDVにあたります。もし相手と一緒にいるときに緊張や恐怖を感じることがあれば、デートDVが起きているかもしれないと疑ってみることも必要

です。また、暴力を選ぶ人は女らしさや男らしさに対する決めつけ（ジェンダーバイアス）や暴力容認の意識が強い傾向があると話されていました。

取材を終えて

講座の取材を終えて、DVやデートDVは自分の周りや身近なところで起こりうるものなのだと思います。デートDVの背景にあるものとして、イジメや差別、環境などさまざまな問題があるのではないかと感じました。

▼帯広市が発行しているデートDV防止パンフレット



▲生徒がロールプレイングを行う様子